

高等学校家庭科における企業との連携授業

○河内美智* 土肥直樹* 宮川純平** 武井玲子**

(*岡山県立精研高, **ライオン(株))

【目的】家庭科は、生活に密着した科目であり、取り扱う内容が多様である。多様であっても、それらの専門的な研究をしている企業と連携した授業を行うことによって、生徒の興味・関心を引き出すことができるのではないかと考えた。そこで、本研究は、生徒が教室に居ながらにして専門家から直接、授業を受けることができる方法の検討を行い、授業実践を行ったものである。

【方法】平成10～12年度にわたり、岡山県立精研高等学校園芸科学科「家庭一般」で授業を実践した。

【結果】生徒が教室に居ながらにして専門家から授業をうける手段として、TV会議システムを用いた。これにより、遠隔地であってもリアルタイムでface to faceの授業が可能となった。講義のみでなく、実験や実習も行うことができ、それらは授業のペースにあわせて展開することが可能である。また、生徒がとても真剣に授業に参加し、この様子が実習では特に顕著であった。

一方で、今回の高等学校と企業との連携授業は、初の試みで、事前準備に相当の労力が必要であった。しかし、高等学校側、企業側の双方にメリットが得られるものであり、今後の授業形態の一つとして、十分に期待できるものであることもわかった。